

ワークシート(第 10 章 EPISODE)

EPISODE 10-1

● 授業づくり・学級づくりの難しさ

d 先生は教職について 5 年目の小学校教師です。授業や家庭対応、校務分掌など、試行錯誤のことも多いですが、教師として毎日子どもたちに向きあうことにやりがいを感じています。

この春は、感染症対策のために、数週間の休校措置がとられました。学習進度の遅れが目立ったことから、進度の遅い子には難しいことがわかっていながら、急ピッチで授業を進める必要がありました。一方で日頃から進学塾に通っている子どもは、新しい単元の授業内容でも、「それもう知っている」とでも言いたげな表情で、熱心に取り組もうとしません。通常の授業づくりによく慣れてきた頃でしたが、子どもの習熟度や個性の違いとそれを考慮した学習指導という点で、今年は特に難しさを感じていました。

クラスづくりの面でも困難さがありました。行事は減り、発表会など子どもが交流し協力する機会も限られます。以前から最近の子ども同士の関係づくりの難しさを感じていましたが、ディスタンス下の交流ではなおさらです。授業でもゲーム形式で交流の機会をもつよう試みましたが、その場限りで雰囲気づくりまで広がりません。2 学期以降の学級づくりに心配を感じる d 先生でした。

EPISODE 10-2

● 子どもの自主性をめぐる教師の悩み

教師や管理職の多くは「子どもが主人公になるクラスづくり」を大事だと考えています。しかし現実には、さまざまな理由から、子どもの主体性の実現よりも、テストの点数や学業成績の向上を目的として指導することが少なくありません。

e 先生は、教師歴 20 年のベテランで、中学校の生徒指導部長です。日頃の指導から、生徒には「厳しい、怖い先生」だと思われています。e 先生は「生徒はまだ幼く、自分で自分をコントロールできないため、教師が指導して、限度を教えてあげなくてはいけない」と考えています。

近頃、隣の学校では校則の自由化などの実例も増え、子どもの自主性を大事に、という声が管理職からも聞かれます。e 先生自身は「生徒の自主性といってもどこまで許せばよいのか。生徒の思う通りにしたら学校は成り立たない」と思っています。

● 本章での学びを踏まえて、EPISODE 10-2 を次の視点で検討してみましょう。

「子どもの主体性」とは、学校や授業でのどのような場面を指すのでしょうか、そしてそれを実現するために教師がすべきことは何でしょうか。

(EPISODE 10-2 記入欄)

「子どもの主体性」とは、学校や授業でのどのような場面を指すのでしょうか、そしてそれを実現するために教師がすべきことは何でしょうか。

記入者名：

(日付： 年 月 日)